

天声人語

丹沢の山々に抱かれた神奈川県松田町の寄地区では、いま2万本もの臘梅が咲きほこる。13年前、寄中学校の生徒が卒業記念に250株の苗を植えたのが始まりだ▼「臘梅は冬に咲く。

ほかの花々より断然早い。町おこしにならないか」。大館達治さん(73)ら地元森林組合のメンバーが、荒れ放題だった畠を再開墾し、毎年数百株ずつ植え足してきた。植樹当日は卒業まぎわの小6や中3の生徒を招いた▼野鳥に芽を食い荒らされた年もあったが、メンバーはあきらめずに剪定、施肥、下草刈りを続ける。群馬や埼玉など他県の名所を見学して運営方法も研究。細々と始まった「寄口ウバイ園」に訪れる人は増え、丹沢の新しい観光地となつた▼園誕生のきっかけになつた寄中学は、今年度で閉鎖される。「母校が消えるのはやはり寂しい。でも臘梅の盛りには2万人が来てくれる。励みになります」と大館さん▼8回目となる今年の「寄口ウバイまつり」は11日まで。園内には甘い香りがあふれ、花もつぼみも蠟細工のような光沢を放つ。濃い黄色は満月臘梅、淡いレモン色は素心臘梅。花色はずいぶん異なる。見渡せば、冬空の青、雪山の白との対比が鮮やかだ▼
 「臘梅のひかりに未知の月日透く」谷内茂。半透明の花は冬の陽光を一身に吸い込んで輝く。少子化の大波にあらがえず、母校の歴史が閉じても、生徒たちが植えた臘梅は来年も必ず咲く。きようは立春。暦の上ではもう春である。